「腫瘍崩壊に伴う赤血球の形態変化とその意義に関する検討」の研究概要

当院血液内科では上記のタイトルで臨床研究を行っています。対象は 2014 年末から 2021 年までの間に当院で CHOP 療法による治療導入をされた成人 T 細胞白血病リンパ腫（ATLL）の患者さんです。治療開始後 2 週間の採血結果の推移を検討対象としています。なお比較対象として、同時期に腫瘍量の多いびまん性大細胞型リンパ腫の患者さんについて 10 名程度を平行して解析する予定です。

ATLL の患者さんにおいては、診断時にも軽度の赤血球の形態異常を有している方が多く、さらに治療開始後一過性に形態異常が進行することが多く、その経過を詳細に検討することで赤血球の新しい役割を明らかにすることを目的としています。具体的には治療導入後 2 週間後までの末梢血血液像、Hb、LDH、可溶性 IL2 レセプターの経時的なデータを集めて、一部は統計的に解析します。

詳細は当院倫理委員会で検討、許可をいただき、患者さん方の個人情報の管理には細心の注意を払い、検討を行います。過去の記録を参照する検討であることから、個別の同意は求めず、この場を借りて実地内容を公開し、検討を進めます。詳細についての質問、疑問や、研究対象からの辞退等の要望があれば、いつでも連絡ください。

研究責任者
小濵浩介
いまきいれ総合病院血液内科部長
099-252-1090